

313 トリプシン測定用RIAキット
 リアグノスト®トリプシンの基礎的検討
 ヘキストジャパン(株) 総合開発研究所免疫生化学
 秋田 誠、寺野由剛
 同、製品企画部RI課 新発田杏子

<はじめに>

トリプシンは膵外分泌液に含まれる消化酵素のひとつである。トリプシンの血中に致る経路は必ずしも明らかではないが、RIA法の開発により血中トリプシン値の測定が可能となり、その病態生理的解明及び、臨床的意味が論議されるようになった。

リアグノスト®トリプシンは、RIA法の原理に基づき血中及び、膵液中のトリプシンを高精度で、しかも簡便に蛋白量として測定し得る本邦初のキットである。演者らは、本キットについていくつかの基礎的検討を行ったので報告する。

<操作法>

概略をFig.1に示す。
 <インキュベーション時間の影響>

血清及び、膵液を試料とし、インキュベーション時間のヨウ化トリプシン(¹²⁵I) - トリプシン抗体の結合率に及ぼす影響を検討した。第1反応は16時間、第2反応は、3時間で反応は平衡に達した。

<再現性>

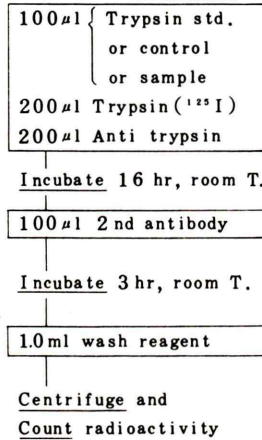
希釈した膵液をくり返し測定し、再現性を検討した。(Tab.1)アッセイ内変動係数は、3.1~6.5%の低値であり、再現性は良好であった。

<希釈試験>

本キットの測定範囲(80~1280ng/ml)を超える膵液試料を、10~80倍に希釈し、希釈試験を行なった。(Tab.2)測定値に希釈倍率を乗じた値は±5%の誤差で一致した。

本キットは再現性、定量性に優れたキットであることが確認された。本キットの測定所要時間は、最低21時間であり、2日間にわたってのアッセイが可能である。

Fig.1 Procedure



Tab.1 Reproducibility

sample	assay value
low	116±7ng/ml (5.9)
middle	261±17 (6.5)
high	512±16 (3.1)

Tab.2 Dilution test

dilution	assay value
×10	1150±10 ng/ml
×20	629±11
×40	299±4
×80	153±4

314 HBs 抗原検出用RIAキット リアグノスト® HBs 抗原の基礎的検討
 ヘキストジャパン(株) 総合開発研究所免疫生化学
 秋田 誠、長谷部保彦、寺野由剛
 同、製品企画部RI課 新発田杏子

<はじめに>

HBs 抗原の検出は輸血液のスクリーニングにとどまらず、院内感染、母児間感染、家族内感染の防止上、各検査室、機関で日常検査として行なわれていることは周知の事実である。

今回紹介するヘキストベリング研究所製リアグノスト®HBs 抗原は、固相法ラジオイムノアッセイの原理による高感度、迅速、簡便なHBs 抗原検出用キットである。HBs 抗原の検出は、RIA法、逆受身赤血球凝集反応(R-PHA)、エンザイムイムノアッセイ(EIA)を用いて行なわれることが多い。演者らは本キットとこれら検出法の測定上の基礎的事項に関して比較検討したので報告する。なお、EIAには、ヘキスト製エンザイグノストHBs Agを用いた。

<本キットの操作法>

概略を図1に示す。
 <結果の判定>

判定は従来通り陰性コントロールの2.1倍をcut off値とし、これより高いcpmを示す検体を陽性、低い検体を陰性とする。

<検出感度>

ヘキストベリング研究所製SRID用HBs 抗原陽性コントロールの希釈系列を調製する。

RIAの従来品、EIA、R-PHA法で測定し、検出限界を比較した。検出限界は従来のRIAキットと比較し同程度、R-PHAに比較し、数倍の検出感度を有した。

<反応の特異性> リアグノスト®HBs 抗原を用いて陽性と判定された患者血清について特異性試験を行ない検討した。

本キットはHBs 抗原検出用の優れたキットであると考えられる。従来のRIAキットに比べ放射性廃液量は約1/5と少なく、これは、本キットの特長と考えられる。

Fig.1 Procedure

